

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500543		
法人名	株式会社 ソルヘム		
事業所名	グループホーム陽だまりの家 なかやま 南街 (まとめ)		
所在地	鳥取県西伯郡大山町塩津763-2		
自己評価作成日	令和4年11月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地
訪問調査日	令和4年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

両ユニットの間にはデッキテラスがあり、天気の良い日は日光浴やレクリエーション、お茶会、各種行事を行うなど南北合同で楽しめる企画を考え行っている。テラスからは田畑や海が見え夕方は夕日の沈みが綺麗に見えて景色もきれいです。施設周辺には神社や釣具店があり、春は神社に桜の花見や釣具店にメダカの鑑賞に行くのが散歩コースにもなっています。巡回図書が毎月来られ入居者の方も楽しみにされています。コロナ禍により面会が制限されているが、感染状況を見ながら玄関先や窓越しでの面会を取り入れたり職員が定期的に電話で様子報告し、時には本人にも電話で話を聞いていたりする事で本人、家族様へ安心して過ごして頂けるよう家族様との関係作りも大切に考えて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鳥取県中部・東部、岡山県勝山に多くの高齢者施設を展開し、各事業所の事例を共有して、介護の質の向上に努めている。
 コロナ禍で面会が難しい中、窓越しやリモート面会、また今年度は面会室を建設し、突然の訪問にも出来る限り対応して、なじみの関係を続ける努力をしている。また、携帯電話で繋がる事が出来る。外出に制限があるため、事業所内で行っているいろいろな行事を行い、楽しく過ごせるよう工夫している。両ユニット間のデッキテラスで行事を行ったり、大山を望む景色を眺めたり、夕陽をみて気分転換が出来ている。事故につながらないよう、毎月多くのヒヤリハットを提出し、振り返りや共有をすることで事故防止に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関と事務所に基本理念を掲げ、申し送り時に唱和している。また、職員の名札の裏にも入れてあり、いつでも読み返せるようにして実践につなげている。	事務所の玄関に基本理念を掲げ、入居者および家族からの意見を尊重し、介護の質の向上と維持・改善に努力し、入居者に満足してもらえるよう、施設運営に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに神社があり日常生活の中で散歩に出かけた際には知人の方に声を掛けてもらったりしている。地域の方に運営推進会議の委員になって頂いており、お互いに情報交換をしている。	コロナ禍の為、以前のように近くの店等には出かけることが出来ないが、近くの神社には散歩に出かけ、近所の方と挨拶を交わすことができ、地域とのつきあいができるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に参加して頂いている運営推進会議等で利用者の方の現在の状態などを説明し、理解をして頂けるように情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催の運営推進会議では(書面開催含む)行事や職員研修などの取り組みの他にヒヤリハットを通して利用者の現在の状態を伝えるようにしている。	運営推進会議では行事や職員の研修等の取り組み、ヒヤリハットの報告等事業所の状況を伝え、会議で出た意見を参考に、サービスの向上に繋げている。	地元の区長は毎年交代するので、継続した取り組みが築きにくい現状を再検討してみてもどうか。また、利用者・家族の参加についても考えてみてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当課の方に運営推進会議に参加して頂き、連携を図るようにしている。報告の仕方など変更があった時には電話やメールでアドバイス等を頂いている。	運営推進会議に行政の参加があり、事業の活動や状況についての意見交換やアドバイスを受けている。また、研修会等の情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束適正化委員会があり3カ月に1回会議を開き話し合いをしている。話し合った内容は全職員に周知出来るよう回覧で回し確認後、事務所に保管している。ユニット内、玄関には鍵が付いているが施錠については時間を決めて行っており利用者は自由に出入りされている。	3か月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、全職員に周知を図っている。職員は利用者に対する不適切な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒防止の為のセンサーを使用する場合はケアプランにあげ、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各事業所ごとや社内研修にて虐待について勉強の機会を持っている。日々の業務の中で気付いた事は職員同士が声を掛け合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要なケースが現在は居られないが機会がある時には職員へ説明を行うようにしている。主な対応は管理者が行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時には、時間をとって契約書や重要事項説明書、事業所でできるケア内容や取り組みについて説明している。丁寧な説明を心掛け理解と納得が図れるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあいポストを設置し、気付きの点があれば遠慮なく意見を頂けるシステムを設けている。また、サービス担当者会議や運営推進会議にて意見・要望を聞き運営に反映できるようにしている。	コロナ禍で年2回行っていた家族会を中止しているが、毎月お便りを送ることで家族とのつながりを維持し、意見を聞くよう努めている。	運営推進会議のメンバーに利用者、利用者家族を加えることで意見の吸上げを図ってみたいかどうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議や全体会議を開催し困っている事など聞き出すようにしている。可能な限りミーティングを行い、職員一人ひとりの意見や提案を聞く様にしている。	管理者は、毎月のユニット会議や全体会議で職員の意見や提案を聞いている。また、管理者会議で事業所の意見を反映できるようにしている。	出た意見や提案を皆で検討してみたいかどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスや社内研修への参加時には処遇改善交付金が付くようになっている。研修へはシフト調整を行う事で全職員が参加出来るよう環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成委員会が中心となり各事業所で配布された資料を元に社内研修を行っている。本部主催の合同研修へはシフト調整を行いなるべく全職員が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町が主催のケアカフェで同業種の方との意見交換の場や、町内グループホームとの交流もあったがコロナ禍の為現在は交流が中止となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には家族様から情報もらい、本人と馴染みの関係が作れるように努めている。困っている事や不安な事、要望を聞いたリカンファレンスやアセスメントを行い本人が安心して生活出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前には、家族様と連絡を取り困っていることや要望などの把握に努めている。コロナ禍で本人との事前面談はすべての方へは出来ていないが求めている事は何か考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に情報もらい必要としている支援を行う為に話し合いをしている。また、ケアマネージャーにも相談しよりよいサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりと穏やかに生活できる様に物作りや頭のリハビリ、食事の下準備など手伝って頂いたりし、良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙を出し、健康状態や生活の様子、行事の様子を報告したりしている。面会に来られた時や体調の変化があった時に電話で様子報告するなどし家族様との関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が面会に来られたり、家族様より自宅の様子を聞いたり、ドライブで農作業の様子を見たり、自宅近所を通るなどし、本人が懐かしく思えるように心掛けている。	コロナ禍であり面会制限があるが、ドライブを兼ねて自宅方面に行ったり、友人や近所の方の訪問があり、窓越しで話をしている。電話でも話しができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の普段の様子を見て関係把握に努め、席を決め等を行っている。職員が間に入り場を盛り上げる事で一人ひとり孤立しないよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設へ移られても安心して生活して頂けるように必要な情報や支援内容等を情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、言葉や表情からその人の思いの把握に努めている。本人、家族様から希望を聞き思いに沿った暮らしが出来るよう努めている。	利用者の訴えや何気ない動作を観察し、思いを汲み取るように努めている。家族からも今までの暮らしぶりを聞き、ケアに反映できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様やケアマネージャーなどから生活歴や病状、暮らし方などを聞き情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの健康状態や表情などを見ながら作業や体操等を勧めている。意欲が見られない時には、無理強いせず時間を空けたり、別の作業をお願いしたりし気持ちに添えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて職員同士で意見交換を行い支援に反映させるようにし、アセスメントの参考にしている。モニタリングを毎月実施し、実施状況とケアプランが本人に合ったものか評価を行っている。	毎月ユニット会議を開催し、利用者のケアについて意見交換している。6か月に一回看護師やケアマネージャーと共にケアプランの評価・見直しをし、同意を得ている。	コロナ禍により、家族の面会制限で利用者の詳しい様子が伝わりにくい現状。より丁寧な説明に努めてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化などは個人記録に様子を細かく記入している。個人記録を参考にしケアプランの見直しや評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の健康状態や家族の状況にあった解決策を検討している。受診対応など医療機関から要望があれば必要な支援に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月移動図書館の訪問があり利用する事で交流の機会が持てている。又、流行状況をみながら運営推進会議を開き地域の方、役場担当課の方に出席して頂き意見交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月かかりつけ医の訪問診療があり日頃の様子を伝えている。専門科の受診時にはノートを記入したり、感染症の流行時は電話診療で様子を伝えたり適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医の訪問診療や精神科の受診支援もしている。コロナ禍により電話診療にも対応している。近医の訪問歯科を利用することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の皆様の体調に変化があった時には施設看護師に報告・相談し医療機関に連絡等を行い適切な医療につなげられる様に連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に連携シートを送り、安心して治療できる様にしている。また、医療機関と情報交換をこまめに行い早期に退院出来るよう関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、事業所でも対応出来るケアの内容を説明行い確認書を記入して頂いている。重度化した時には家族様、主治医、ケアマネ、看護師、管理者が話し合い、方針に従って支援をしている。話し合いは、状況に応じてその都度行っている。	★協力病院である佐々木医院・岡田医院の医師や看護師と連携をしている。重度化した場合も家族を含めて話し合い、重度化や終末期にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、急変や事故発生時に職員が対応出来るに努めている。救命救急の訓練を消防署にて行い心肺蘇生やAEDの使用方法を学んでいる。(感染症の流行により日程は保留中)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を基に消防署の立ち会いにて避難・消火訓練を行い全職員が対応出来るようにしている。昨年は、行政の立ち会いもあり意見やアドバイスも頂いている。	年4回定期的に避難訓練を実施している。今年には夜間想定を消火訓練、緊急連絡網の電話訓練などを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの気持ちを考え、自己決定しやすい言葉かけをするように心掛けている。個人記録や薬の保管等は鍵の掛けられる場所で保管を行っている。	言葉遣いに配慮し、一人ひとりの人格を尊重するよう対応している。個人記録等は鍵のかかる戸棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの状態に合わせて声を掛け、意思表示の難しい方には表情や反応を読み取るなどし本人の意思を尊重しながらの支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表を基に支援を行っているがその日の体調や一人ひとりのペースに合わせた対応を行うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を利用者、職員と一緒に考え快適に過ごして頂ける様に支援している。2か月に1回移動散髪車を利用し、希望に合わせたカットや毛染めなどしてもらえるよう連携を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方に季節を感じられる料理や食べたい物を聞き取りながら食事提供している。トレーや箸のセット等の準備、食器洗いやトレー拭きなどの後片付けを利用者と職員と一緒にやっている。	食品衛生管理チェック表を使い、安心安全な食事を提供できるようにしている。食事の下ごしらえ、準備、後片付けを共にし、会話の中で一人ひとりの好みを把握し、楽しんで食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	恵みの会で作成している献立表を基に調理を行いバランスのよい食事提供に努めている。一人ひとりの食事量や水分量は個人記録に記録、食事摂取量の少ない方などへは食べやすい物の提供など工夫を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の方の状態に合わせて声掛けや見守りで支援を行っている。義歯使用の方は毎日就寝前に洗浄し、洗浄液に浸ける事で清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を確認しながら声を掛けその人の身体状況に合わせて歩行支援や車椅子使用でトイレ案内している。排泄パターンや尿量の把握に努めその人に合ったパット使用の検討やトイレ誘導も行っている。	日中は個人記録や排泄チェック表を確認しながら声掛けをして、トイレで排泄できるようにしている。夜はポータブルトイレを使用する利用者もいるが、リハビリパンツの使用を減らし、排泄の自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日間食にはヨーグルトを提供し便秘の方へは腸の動きをよくする為朝食前に牛乳提供を行っている。排便チェック表や本人の体調を確認しながら医師や看護師に相談しながら下剤服用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けを工夫しながら週2回は入浴して頂けるようにチェック表を確認しながら支援している。一人ひとりの身体状況に合わせ、シャワー浴や清拭など支援方法も工夫を行っている。	職員の配置で時間帯は限られるが、週に2～3回は入浴できるよう支援している。菖蒲湯、バラ湯、ゆず湯などで季節を感じ、楽しんで入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて休息を取って頂き昼寝等も支援している。夜間頻尿の方へは午前中でも短時間の仮眠を取って頂き体調に配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や受診で処方変更があった時には連絡ノートへ記入し、薬情報専用のファイルを活用する事で全職員が確認しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折りや洗濯たたみ、トレイ拭きなど一人ひとりの出来ることを見極めながら日常生活の中で手伝いをして頂く。また、季節行事の飾り作りなども手伝って頂いたり張り合いや楽しみが持てるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの神社や国道側まで散歩へ出られる方がありその都度付き添い支援している。桜や紅葉などの季節行事の外出の他に天候に合わせてドライブなど行い気分転換して頂けるよう支援している。	★コロナ禍であっても、周辺には自然豊かな散歩コースがあり、その都度付き添い支援している。また、天気の良いときは両ユニット間のデッキテラスに出て、外気に触れ、歌を歌ったりして気分転換を図っている。ドライブに出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ渦の為に買い物へは出掛けれていない。本人の希望に添い化粧品等の購入を行っているが金銭管理は施設にて行い、毎月出納帳を家族様へ送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や知人の方への電話は職員が取次役となり本人の希望に添い電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やデッキテラスには花を植えたり、リビングへは入居者と一緒に作成した作品を掲示している。温度・湿度や光の入り具合に注意し、リビング等でも快適に過ごせるようにしている。天気の良い日には南・北合同でテラスを使用してレクや行事を行い楽しんで頂いている。	★希望のテレビ番組を見られるようにしたり、時には音楽を流し、落ち着いた雰囲気になるよう工夫している。壁には行事の写真や作品を展示している。温度・湿度を管理している。広いデッキで風や季節を感じたり、両ユニットとの交流や行事をして楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには和室があり畳で休まれる方やソファが置いてあるのでひとりでゆっくり過ごされたりしている。渡り廊下にもソファが置いてあり散歩時に気分転換して頂けるように空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしく過ごして頂けるように、ご家族の写真や本人が作成された作品などを掲示したりし居心地よく過ごして頂けるような居室作りに努めている。	居室にはベッドを設置して整理整頓され、転倒防止に努めている。衣装タンスの上には季節の花や家族の写真が飾られている。個々の習慣を尊重し、畳を敷いて過ごしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖使用や車椅子の方でも移動しやすいように施設内はバリアフリー設計になっており手すりや車椅子対応のトイレも設置されている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500543		
法人名	株式会社 ソルヘム		
事業所名	グループホーム陽だまりの家なかやま 北街		
所在地	鳥取県西伯郡大山町塩津763-2		
自己評価作成日	令和4年11月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和4年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

両ユニットの間にはデッキテラスがあり、天気の良い日は日光浴やレクリエーション、お茶会、各種行事を行うなどし、南北合同で楽しめる企画を考え行っている。テラスからは田畑や海が見え、夕方は沈む夕日が見えてとても綺麗です。施設周辺には、神社や釣具店があり、春は神社に桜の花見や釣具店にメダカの鑑賞に行くのが散歩コースにもなっています。巡回図書が毎月来られ入居者の方も楽しみにされています。コロナ禍により面会が制限されていますが、感染状況を見ながら玄関先や窓越しでの面会を取り入れたり、職員が定期的に電話で様子報告をし、本人様にも電話で話をしたりすることで、安心して過ごして頂けるよう家族様との関係作りも大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照	
------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、基本理念・行動指針の唱和を行っている。職員は、名札の中に基本理念のカードを入れて意識出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験や保育園との交流を行っているが、今年度は、コロナ禍の為中止している。巡回図書が、毎月来られ入居者の方も楽しみにされ利用しておられる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの神社や釣具店まで散歩に行き地域の方と挨拶を交わしたりしている。運営推進会議に入居者の方も参加して頂き認知症の理解をして頂くように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政担当者・駐在所・区長・部落の代表・薬剤師等メンバーとして開催している。事業所の取り組み行事・研修・ヒヤリハット等報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、入退所や事故報告等行っている。町の文化祭には、入居者の方と一緒に制作した作品を出店している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束委員会を開催し、話し合った内容を職員全員に回覧し、身体拘束について理解し、防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で、虐待防止の勉強会を行い。職員同士が、注意できる関係作りを目指し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者が1名有り、福祉事務所担当の人と連携を取りプランを共有し、コロナ禍であるが、電話・手紙を通し連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に説明する際は、十分に時間を取り説明を行っている。不安・疑問がないように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回年6回の運営推進会議で、地域・家族・行政の方から運営に関する意見や要望を受け反映に務めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っている全体会議で、職員の意見や提案を出し、管理者は全体会議の意見を管理者会議等の会議の時に検討をして頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個人評価を行い。個人面談で職場環境・条件の整備の反映に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ時期ではあるが、職員一人一人の力量を把握しながらチームで、カンファレンスや研修を行い取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、他の同業者とは交流は持たないが、各事業所からの研修要請には、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を聞き取り、情報を基に支援方法を話し合い、本人の思い不安を受け止め安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き取り、本人と家族・家族同士の中での思いの違いも理解しながら思いに寄り添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在必要としている支援を行えるよう、状況等を確認し相談を繰り返しながら信頼関係を作り、必要なサービス利用に繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴・得意な事等把握し、職員が手伝ってもらう場面を作っている。又困っていると利用者同士で助け合えるように職員が働きかける工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子・健康状態・生活面・行事等毎月手紙を通じて、報告を行っている。面会時にも日頃の様子をわかって頂けるよう努め、本人と家族の絆を大切にし関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会制限があり、月1回の手紙・電話対応等で、関係が途切れないよう努めている。通常であれば面会、ドライブによる故郷訪問等行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性や性格を把握し、日常生活の中で馴染みの関係を作り、必要に応じて職員が支援し、利用者が関わりを持ち支え合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動されたり、病院に入院された時も必要な情報、支援内容等を情報提供し安心して生活できる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や要望を本人や家族に聞き、担当者会議を開き支援計画を作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に聞き取りを行い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し、一日の生活リズムを把握する。定期的にあセスメント、カンファレンスを行い、職員同士で情報共有を行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、管理者、担当職員の意見を交換し、介護計画作成の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや様子を個人記録に細かく残し、申し送りノートを活用し、職員間で共有しながら介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な往診で、体調管理を行い、異常や異変があればかかりつけの先生の指示を仰ぎ、家族に連絡や報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で、地域の方々との交流は少なかったが、運営推進会議に参加して頂き、情報交換や協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が、毎月定期的にかかりつけ医より訪問診療を受け適切な医療が受けれるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と相談し合いながら利用者の健康管理に努めている。体調不良時には、看護師と主治医へ報告し指示を受け往診や受診を受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供表を作成し、利用者が安心して治療を受けれるようにしている。病院側との情報交換に努め、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化がある時は、施設看護師に相談し、かかりつけ医に報告し指示を仰ぎ、その都度家族に報告している。家族の希望にできる限り添えるような支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回行っている全体会議で、職員の意見や提案を出し、管理者は全体会議の意見を管理者会議等の会議の時に検討をして頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年4回法令に基づいて行い、年1回は消防署に来ていただき避難訓練と消化訓練を行っている。又自主的に緊急時の連絡網の訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録、書類等は鍵のかかった戸棚に保管している利用者一人ひとりの思いに添えるように自己決定しやすい対応をするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	カンファレンス等で情報共有し、一人ひとりの状態に合わせて表情や反応を読み取り、本人が選択しやすいように働きかけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、柔軟な対応をするように心掛けている。その日の体調を見ながら希望に合わせて過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回移動散髪を利用し髪を切ってもらっている。季節に合わせて本人の希望を確認しながら洋服選びをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	牛蒡のさがき等、食事の準備を利用者と職員と一緒にしている。食後のトレイ拭きもして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に添って食事を作り、バランスの良いメニュー提供を行っている。個々の状態に合わせた食べやすい食事を提供出来よう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清保持の為、食後に声掛けや見守りにて支援を行っている。就寝前は、義歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録で、排泄状況を記録し、出来るだけトイレで排泄が出来るようにしている。トイレの訴えが無ければ時間を見ながら声かけし支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の飲み物や根菜類のメニューの工夫を行い、毎日の水分量・排泄状況をチェックし、便秘が続いている状況であれば便秘薬を服用しコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調・要望を聞き入れ週2回は、入浴出来るよう柔軟な対応に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中無理のない運動を取り入れ、夜間安眠につながるよう生活のメリハリに心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で把握に努め、服薬チェック表で確認を行い。服薬支援時は他の職員に再確認してもらい服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりがいや喜びを感じてもらえるよう心身の状態にあった役割、レクリエーションを取り入れ、野菜の皮むき、塗り絵、読書等して頂き、残存機能を生かした支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で、外出は控えているが天気の良い日は、テラスに出てもらい日光浴を兼ね景色を見たり、歌を歌ったりと気分転換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の同意を得て金庫で預かっている。毎月決まった物以外の買い物は、家族の許可を頂き職員が買い物をし、明細書を毎月送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に年賀状や暑中見舞いを書いて頂いている。ペンを持つのが困難な方については、職員が代筆している。必要に応じて電話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスや玄関に季節の花を植えたり、生けたりして季節を感じて頂いている。常に施設内の温度調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、渡り廊下にソファを置き自由にくつろいで頂き、テラスを利用し、行事・レクリエーション・日光浴等交流を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔なじみの物を持ち込んだり、家族様の写真を飾られたりされて、居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置し、安全に過ごせるよう配慮している。洗濯干しや洗濯たたみ、新聞折り、食器洗い等出来ることはして頂くよう声掛けを行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	<運営推進会議を活かした取り組み> 運営推進会議の委員が固定されたメンバーとなっており、利用者や家族様の参加がない。	利用者、家族様へ参加の声掛けをし出席して頂くことで意見の吸い上げを図る。	・契約時に会議を実施していることを説明し、参加して頂けるようお願いする。 ・現在おられる入居者の家族様へも出席して頂けそうな方へ積極的に声を掛けて行く。	3ヶ月
2	11	<運営に関する職員意見の反映> 発言をする職員が固定された職員になってしまっている。	会議に出席した職員全員から意見が出る。また、出た意見を全体会議等で話し合う。	・誰でも発言できるような雰囲気づくりをする。 ・普段発言が出ない職員へも上手に問いかける。 ・改善策を職員全員で話し合う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。